

### 3 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析

#### 1) 普通作物

##### (1) 水稻

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
苗立枯病	平年並	やや多	温湯消毒を実施した一部の育苗場で発生した。	種子消毒や床土消毒、育苗管理の徹底により、全般には平年並の発生であった。温湯消毒での種子消毒が拡大したが、温度管理がうまくできなかった育苗場で発生がみられた。
苗いもち	平年並	少	全般に少ない発生であった。	種子更新率が上がり、育苗管理も適正に行われたため、少なかった。
葉いもち	早植： やや遅 普通植： やや早	早植： やや少 普通植： やや多	7月上旬、中旬の調査では、県全域でやや少ない発生であったが、8月上旬の調査では、県南部の普通植で多くなった。	6月上旬から7月上旬は、気温が高く、降水量が少なかったため、葉いもちの初発は平年よりも遅くなり、早植での発生も少なくなった。その後、7月中～8月上旬に降雨が多く、気温が低くなったため、箱施用剤の使用割合が低い普通植で発生が多くなった。
穂いもち	早植： やや遅い 普通植： 平年並	早植： 少 普通植： 平年並	地域別には東北・中部で少ない発生、県南部では平年並の発生となった。	8月中旬～9月中旬は気温はやや低かったが、降雨が少なく、葉いもちからの感染が少なかった。
紋枯病	やや遅	平年並	7月上旬、中旬の調査では、やや少なかったが、8月上旬～9月は平年並みの発生となった。	6月上旬～7月上旬は降水量が少なく、感染に適していなかった。7月中旬～8月上旬に降雨が多く、寡照となったため、発生が増えた。
ばか苗病	平年並	やや多	育苗箱では発生の多い育苗場が散見された。本田での発生は平年並であった。	種子消毒や床土消毒、育苗管理の徹底により、全般には平年並の発生であった。温湯消毒での種子消毒が拡大したが、温度管理がうまくできなかった育苗場で発生した。
稲こうじ病	平年並	やや多	東北・南部で発生が多く、県中部で平年並であった。	
もみ枯細菌病	平年並	やや多	温湯消毒を実施した一部の育苗場で苗の発生が多かった。	種子消毒や床土消毒、育苗管理の徹底により、全般には平年並の発生であった。温湯消毒での種子消毒が拡大したが、温度管理がうまくできなかった育苗場で発生した。
縞葉枯病	やや早い	やや多	第1世代成虫による前期発病「ゆうれい症状」が県南部で平年より早くみられた。県南部で発生が多かった。県北部、県中部は少ない発生であった。	2、3年前から県南部で発生が増加し、ヒメトビウカの保毒虫率も高くなっている。
黄萎病	平年並	やや少	生育期の発生、再生イネでの発生はやや少なかった。県中部の一部では発生株率の高いほ場もみられた。	ツマグロヨコバイの発生が少なかった。
ヒメトビウカ	平年並	やや多	5月から9月までの予察灯調査期間中の誘殺数は少なく推移した。6月上旬のすくい取り調査では県南部で一部多かった。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量はやや多。	6月中旬から7月中旬にかけて気温は高く推移したため、特に県南部で7月中旬に発生する世代には好適な条件であった。
ツマグロヨコバイ	平年並	少	5月から9月までの予察灯調査期間中の誘殺数は少なく推移した。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並であった。	7月下旬～8月上旬の気温が低く、降水量も多かった。また、8月下旬まで降水量が多いまたは気温が低いなど、発生には不適な条件であった。
セジロウカ	平年並	やや多	予察灯における誘殺数は少なく推移した。本田での発生量はやや多。	本県への飛来は少ない。
トビロウカ	平年並	少	予察灯における誘殺数は少ない。本田での発生は認められなかった。	本県への飛来は少ない。
ニカメイガ	越冬世代： 平年並 第一世代： 平年並	越冬世代： 平年並 第一世代： やや少	7月中旬の心枯茎の発生株率は平年並、8月下旬から9月上旬の白穂の発生株率はやや低かった。	越冬幼虫の寄生株率はやや低かった。7月下旬～8月上旬の降水量が多かったため、第一世代成虫の発生量はやや少なくなった。
コブノメイガ	平年並	少	予察灯への誘殺は認められなかった。	本県への飛来は少ない。
イネミスゾウムシ	平年並	やや少	5月中旬の本田における発生量はやや少なかった。5月から9月までの予察灯調査期間中の誘殺数は少なく推移した。	越冬世代成虫の越冬密度が低かったため、越冬世代の発生量は少なかった。そのため、第一世代の発生量も少なくなった。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
イネツトムシ(イチモンジセセリ)	平年並	県北部：少 県中南部：平年並	発生株率はやや低かった。	
コバネイナゴ	平年並	平年並	8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並であった。	
斑点米カメムシ類	平年並	多	7月中旬のイネ科牧草地での発生量はほぼ平年並であったが、8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生量はクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシは平年並だが、カスミカメムシ類は多かった。	7月上中旬は気温が平年より高く推移し、8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、平年に比べて特にカスミカメ類の発生が多くなった。

## (2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年並	やや多	小麦で一部発生の多いほ場があった。	生育期の気温が高く、発生に好適な条件であった。
赤かび病	平年並	やや少	全般的に少ない発生であった。収穫の遅い小麦で発生が見られた。	5月から6月上旬にかけては気温は高く、降水量が少なく発生に不適な条件であった。
大麦縞萎縮病	平年並	少	少ない発生であった。	二条大麦では、罹病性品種の作付が極少となった。
大麦斑葉病	平年並	少	少ない発生であった。	健全な種子が供給された。

## (3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年並	多	生育期の発生は平年並。被害粒の発生量は多。	
べと病	平年並	少	生育期の発生は少なかった。	8月下旬は気温も低かったため発生に不適な条件であった。
コガネムシ類	平年並	県北部：多 県中南部：平年並	全般に平年並であったが、県北の予察灯で6月にオオクロコガネ誘殺数が多くなった。県北部で夏に産卵されたと思われる幼虫による被害が目立った。	堆肥を利用する飼料作物が多い地域では、成虫が大豆に飛び込む機会が多い。
アブラムシ類	平年並	やや多	8月中旬、9月中旬とも発生ほ場率は高いまま推移した。	7月上中旬の気温が高く、発生がやや多くなった。
ダイズサヤタマバエ	平年並	平年並	被害粒の発生量はやや少ない。	
シロイチモジマダラメイガ	平年並	やや多	被害粒の発生量は多。	
マメシンクイガ	平年並	平年並	被害粒の発生量は平年並。	
カメムシ類	平年並	平年並	ほ場での発生量は平年並。被害粒の発生量は平年並。	ほ場では主にホソヘリカメムシ、アオクサカメムシが観察された。
ハスモンヨトウ	平年並～やや遅い	平年並	フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数は平年よりやや早く、多かったが、大豆ほ場における幼虫の発生ほ場率はほぼ平年並であった。	8月上旬は降水量が多く、下旬は気温が低かったため、幼虫の発生に不適な条件であった。
フタスジヒメハムシ	平年並	平年並	発生量は、8月中旬にはやや少なかったが、9月中旬は平年並であった。	8月下旬の降水量が多かったため、発生に不適な条件であった。

## 2) 野菜

### (1) いちご (本ば:平成20年10月~平成21年5月 親株・育苗床:平成21年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年並	やや多	やや多い発生であった。	5月から8月まで寡日照によりやや軟弱に生育した。8月の中旬以降の降雨や高液温等により発生が増加した。
萎黄病	平年並	少	少ない発生であった。	無病親株を使用し、無病畑での採苗、空中採苗が行われている。
灰色かび病	やや早	少	採苗後の発生は少なかった。	7月の降水量は若干多かったものの、8、9月の降水量は平年より少なく、発生に不適な条件であった。
うどんこ病	平年並	やや多	親株、育苗期間を通してやや多い発生となった。	5月から8月まで寡日照によりやや軟弱に生育したため感染しやすくなった。
アブラムシ類	平年並	平年並	全般に平年並の発生であった。	
ハダニ類	平年並	多い	全般に多い発生であった。	育苗期間に降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。薬剤感受性の低下も懸念される。
オンシツコナジラミ	平年並	平年並	一般的に平年並の発生であった。	

### (2) トマト (冬春:平成20年10月~平成21年5月 夏秋:平成21年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年並	少	全般に少ない発生であった。	8、9月の降水量は平年より少なく、発生に不適な条件であった。
灰色かび病	平年並	多	7月からやや多い発生となり、8月には多い発生となった。	7月の日照不足と降水量が多かったため発生が多くなった。
葉かび病	平年並	多	生育後半の8月から発生が多くなった。	耐病性品種が作付けされているが、発生がみられた。
アブラムシ類	平年並	少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
オンシツコナジラミ	平年並	やや多	冬春の作型では2、3月にやや多かったが、一般的に平年並の発生となった。また、夏秋の作型では、作が始まった6月に多い発生となり、一般的にやや多い発生であった。	2、3月に気温が高く、発生に好適であった。また、6月に気温が高く、降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。
タバココナジラミ	平年並	やや多	冬春の作型では2、3月にやや多かったが、一般的に平年並の発生となった。また、夏秋の作型では、作が始まった6月に多い発生となり、一般的にやや多い発生であった。	2、3月に気温が高く、発生に好適であった。また、6月に気温が高く、降水量が少なかったため、発生に好適な条件であった。
ハモグリバエ類	平年並	少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

### (3) なす

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	やや早	平年並	7月まではやや多い発生であったが、8、9月は平年並の発生となった。	5月から8月まで寡日照によりやや軟弱に生育したため感染しやすくなった。5~6月の平均気温は発生適温で推移した。
灰色かび病	平年並	少	一般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの、8、9月の降水量は平年より少なく、発生に不適な条件であった。
半身萎凋病	平年並	少	全般に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
青枯病	平年並	やや少	全般にやや少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
ハダニ類	平年並	平年並	一般的に平年並の発生であった。	
アブラムシ類	平年並	平年並	一般的に平年並の発生であった。	
ミナミキイロアザミウマ	平年並	平年並	一般的に平年並の発生であった。	

## (4) きゅうり (冬春:平成20年10月~平成21年5月 夏秋:平成21年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの、8、9月の降水量は平年より少なく、発生に不適な条件であった。
べと病	平年並	やや少	5月は一部でやや多い発生であったが、全般的にはやや少の発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの、8、9月の降水量は平年より少なく、発生に不適な条件であった。
うどんこ病	平年並	平年並	全般的に平年並の発生であった。	5月から8月まで寡日照によりやや軟弱に生育したため感染しやすくなった。
褐斑病	やや早	平年並	全般的に平年並の発生であった。	4月は気温高く、降水量が多かったため、発生が早く、多くなった。その後は平年より降水量少なく、発生は平年並となった。
疫病	少	少	全般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの、8、9月の降水量は平年より少なく、発生に不適な条件であった。
ミナミキイロアザミウマ	平年並	多	全般的に多い発生であった。	全般的に気温が高かったため、発生に好適な条件であった。

## (5) ゆうがお

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年並	平年並	全般的に平年並の発生であった。	5月から8月まで寡日照によりやや軟弱に生育したため感染しやすくなった。
モザイク病	少	少	全般的に少ない発生であった。	防除が徹底された。
アブラムシ類	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (6) なら

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
乾腐病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	防除が徹底された。
白斑葉枯病	平年並	平年並	12月に一時発生が多くなったが、全般的に平年並の発生であった。	防除が徹底された。
さび病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	防除が徹底された。
株腐細菌病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	防除が徹底された。
ネダニ	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (7) ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年並	平年並	全般に平年並の発生であった。	8、9月の降水量は平年より少なかったが、10月は平年より多かった。
べと病	平年並	やや多	全般にやや多い発生であった。	8、9月の降水量は平年より少なかったが、10月は平年より多かった。
黒斑病	平年並	平年並	全般に平年並の発生であった。	8、9月の降水量は平年より少なかったが、10月は平年より多かった。
ネギアブラムシ	平年並	やや少	7、10、11月はやや多い発生であったが、全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。7、10、11月の気温が高く、発生に好適な条件であった。
ネギアザミウマ	平年並	やや多	全般的にやや多い発生であった。	7月は降水量が多かったために平年並みであったが、8、9月は降水量が少なく、発生に好適な条件であった。
ネギハモグリバエ	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギコガ	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (8) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年並	やや多	生育後半にやや発生が多くなった。	4月の降水量が多く、防除も行われたが、生育後半一部地域で発生が多くなった。
べと病	平年並	やや少	全般的にやや少ない発生であった。	4月は降水量が多かったが、適期防除が行われた。
灰色かび病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	4月は降水量が多かったが、適期防除が行われた。
黒斑病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	4月は降水量が多かったが、適期防除が行われた。
ネギアブラムシ	平年並	やや少	全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギアザミウマ	平年並	やや多	全般的にやや多い発生であった。	5月の気温が高く、降水量が少なかつたため、発生に好適な条件であった。

## (9) はくさい

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白斑病	遅い	少	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が少なく、日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。
べと病	遅い	少	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が少なく、日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。
黒斑病	遅い	少	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が少なく、日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。
軟腐病	遅い	少	全般的に少ない発生であった。	8、9月は降水量が少なく、9月は日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。
ウイルス病	遅い	少	全般的に少ない発生であった。	アブラムシ類の発生が少なかった。

## (10) キャベツ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒腐病	遅い	少	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が少なく、日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。
菌核病	遅い	少	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が少なく、日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。

## (11) あぶらな科野菜

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナガ	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (12) レタス

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が少なく、日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。
菌核病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	9月は降水量が少なく、日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。
軟腐病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	8、9月は降水量が少なく、9月は日照時間が多かったため発生に不適な条件であった。
アブラムシ類	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (13) 野菜共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	やや早い	やや多	フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数は平年よりやや早く、やや多かった。特に県中～南部で発生が多かった。いちごでは、本ぼでの発生がやや多かった。露地野菜では、食害痕が多く見られたが、幼虫の発生ほ場率は少なかった。	飛来が始まる5、6月の気温が高く、降水量が少なかったため、初期発生が多かった。また、8、9月の降水量が少なく、本種の増殖に好適な条件であった。10月以降も気温が高かったため、いちごハウス内での発生がやや遅い時期まで発生が見られた。
オオタバコガ	平年並	平年並	フェロモントラップでは、9月に県中南部でやや多く誘殺されたが、全般的に平年並であった。葉菜類・果菜類のほ場では、少ない発生であった。	8、9月の降水量が少なく、発生に好適な条件であった。

## 3) 果樹

## (1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年並	少	全般に発生は少なかった。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	やや早	多	5月から8月にかけて全般的には発生時期が早く、発生量は多かった。	4月の気温高く、開花時期が早まった。このため感受性が高くなる開花時期が4月中旬から4月下旬となり、この時期に雨が多く、その後の5月から8月まで寡日照のため、全般的に多発生した。
赤星病	平年並	少	ビャクシン類における冬孢子堆の成熟は平年並。なしでの発生は、少なかった。	4月の降水量は多かったが、産地のビャクシン類も少なく、飛散胞子量が少なかった。
アブラムシ類	平年並	平年並	全般的に平年並の発生であった。	
ハダニ類	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晩腐病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	5月から8月まで寡日照、7月の降水量は多かったが、適期防除により発生が抑えられた。
べと病	平年並	やや多	栽培後半の発生が多かった	5月から8月まで寡日照、7月の降水量は多かったため、栽培後半の発生が多くなった。
黒とう病	平年並	平年並	全般的に平年並の発生であった。	5月から8月まで寡日照、7月の降水量は多かったため、栽培後半の発生がやや多くなったが、全般的には平年並の発生となった。
チャノコカクモンハマキ	少	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

## (3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年並	少	全般的に少発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの5、6、8月の降水量は平年の約70%と少なく、発生に不適な条件であった。
褐斑病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	7月の降水量は若干多かったものの5、6、8月の降水量は平年の約70%と少なく、発生に不適な条件であった。
輪紋病	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	7月の降水量は降水量が若干多かったものの5、6、8月の降水量は平年の約70%と少なく、8月の気温が平年より低く、発生に不適な条件であった。
ハダニ類	平年並	少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年並	少	フェロモントラップによる誘殺数は、チャバネアオカメムシが5、6月には平年並みであったが、その後は少なく推移した。クサギカメムシは少～並で推移した。 カメムシ類の果樹への飛来は少なかった。	チャバネアオカメムシの越冬量調査では平年並みであり、フェロモントラップでの越冬世代成虫の飛来も全体的に平年並みであった。しかし、新世代成虫のフェロモントラップへの飛来は、果樹園外での餌植物であるスギ・ヒノキの球果量が極めて多かったため、少なかった。
ナシヒメシンクイ	やや早	平年並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並みであった。なしでは、一部のほ場で被害がみられたが、適切な防除が行われた。	発生初期から気温が高い時期が続き、発生時期がやや早かった。
モモシンクイガ	平年並	やや少	フェロモントラップへの誘殺数はやや少なかった。なしでは、一部のほ場で被害がみられたが、適切な防除が行われた。	適切な防除により発生が抑えられた。
リンゴコカクモンハマキ	平年並	やや少	フェロモントラップへの誘殺数はやや少なかった。なしでは、一部のほ場で被害がみられたが、適切な防除が行われた。	適切な防除により発生が抑えられた。

4) 花き

(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年並	やや多	前半は全体的に少ない発生であったが、11月以降平年より多い発生となった。	10月以降の降水量は平年を大きく上回り、気温も高かったため、ハウス内の湿度が高くなった。
アブラムシ類	平年並	やや少	6月まで発生がやや多かったが、7月以降、発生は少なかった。	6月まで降水量の少ない時期が多かったため、発生に好適な条件であり、発生がやや多かったが、7月以降降水量が多い時期も多く、発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年並	少	8月まで発生が少なかったが、9月以降、発生はやや多くなった。	適切な防除により発生が抑えられた。9月に降水量がかなり少なく、9月以降気温が平年より高めであったため、発生に好適な条件であった。
ハダニ類	平年並	多	全般的に多い発生であった。昨年から引き続き発生が多い。	気温が平年より高い時期が多く、発生に好適な条件であった。また、常にハウス内で苗～収穫期まで連続して栽培されているため、発生も連続した。